大学博物館を訪ねる　関西学院大学博物館　兵庫県西宮市

■時計台を軸に「ヴォーリズ展」

８月上旬の猛暑日。兵庫県西宮市の関西学院大学（関学）西宮上ケ原キャンパスの正門をくぐると、広々とした芝生が目に入った。正面には赤い屋根にクリーム色の壁のおしゃれな建物。真ん中の塔には、大きな時計がある。

この建物こそが関西学院大学博物館。関学のシンボル「時計台」に入る。河上繁樹館長（６３）と学芸員の高木香奈子さん（３７）らが迎えてくれた。

＊

平常展「Gift for the Future　関西学院のあゆみ―写真と絵でふりかえる時計台―」が開かれていた（９月１４日まで）。関学は１９２９（昭和４）年、現在の神戸市灘区にあった旧キャンパスから今の上ケ原に移った。米国生まれの建築家でキリスト教伝道者のＷ・Ｍ・ヴォーリズがキャンパス全体を設計、その中心に据えた時計台の設計図や写真が展示されている。

「でも最初は、時計に針がなかったんです。そこで学生有志が時計店に発注して、取り寄せたそうです」と高木さんが教えてくれた。時計台は元々図書館だったが、２０１４年、創立１２５周年を機に博物館になったという。

年２回は企画展をするようにしているという。最もお客さんが来たのは清朝最後の皇帝・愛新覚羅溥儀（あいしんかくらふぎ）の弟、溥傑（ふけつ）の一家をテーマに１５年に開いた「愛新覚羅家の人びと―相依為命―」。古代アンデスの染織品の企画展も計３回。いずれも、関係者から大学へ寄贈された品によって開催できた。９月２８日からは「関西学院の１３０年」をテーマに企画展を準備中だ。

「まだ博物館ができて５年。寄贈していただいたものを中心に、分野を限定せず公開していきたい」と河上さんは話す。近くの甲山（かぶとやま）の登山の行き帰りに寄る人もいるという。「オブジェなどもあり、キャンパス全体が博物館といえる。気軽に来てほしい」

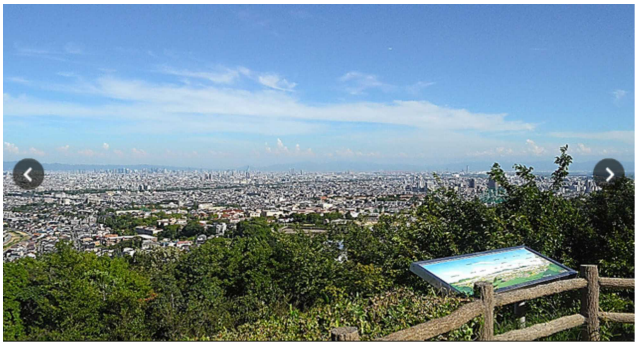
博物館を出てキャンパス内を散策。建物はクリーム色の壁と赤瓦で統一されている。「スパニッシュ・ミッション・スタイル」と呼ばれ、カリフォルニア南部の修道院建築という。礼拝堂や日本庭園など、見るものには事欠かない。中央の芝生には若い母親と子どもが遊ぶ姿もあった。

おなかがすいてきたので、学生会館新館にある食堂「東京庵（あん）」に入った。旧キャンパス時代から３代続く老舗だ。「からあげネギソース定食」をいただいたが、体育会の学生向けで、かなり満腹になった。そばや丼物はもちろん、キーマカレーなども人気という。

＊

関学を後にして、西の方へ少し行くと「仁川（にがわ）百合野町地区地すべり資料館」がある。１９９５年の阪神大震災で地すべりが起き、甚大な被害を出した地区だ。地すべりのほか、がけ崩れや土石流のメカニズム、対策を、模型や映像でわかりやすく解説している。

管理する県西宮土木事務所河川砂防課長の山中清正さん（４３）は「子どもにもわかりやすい内容になっているので、ぜひ災害学習などでも利用してほしい」。



最後に、炎天のもと県立甲山森林公園へ。８３ヘクタールの広大な敷地の約９割が森林。ハイキングやバードウォッチングを楽しむ人でにぎわう。日傘を差し、ゆっくりハイキングコースを歩き始めた。

森の緑、鳥や虫の鳴き声が心地よい。２０分ほどで展望台に。そこからの景色は絶景だ。先ほどまでいた関学はもちろん、神戸と大阪の間に広がる阪神地域の街並み、奥に大阪湾も望める。

博物館を見てきれいなキャンパスを堪能した後、甲山森林公園で汗を流す。内面と外面の両方を磨く絶好のコースだと思う。（佐藤陽）

◇関西学院大学博物館（０７９８・５４・６０５４）がある西宮上ケ原キャンパスは、阪急今津線の甲東園、仁川の各駅から徒歩１２分。甲東園駅からはバスで「関西学院前」下車。「時計台ミュージアム」とも呼ばれる大学博物館は無料で午前９時半～午後４時半に見学できる（入館は午後４時まで）。日曜祝日は休館。

■（おすすめ）阪急電鉄とのコラボグッズ

関学の学生会館新館に入る大学生協では、学外の企業などと組んだ様々な「コラボグッズ」が売られている。

最近ヒットしたのは、今年３月から販売を始めた阪急電鉄とのコラボグッズ類。ボールペンやシャープペンシル、リングノートなど文房具１３アイテムだ。イメージカラー「関学ブルー」の夜空と時計台、中央芝生を背景に走るえんじ色の阪急の車両や、路線図をデザインしたものなどがある。鉄道ファンなどにも人気で、一部は品切れに。

ほかにディズニーやサンリオとコラボしたクリアファイルやキャンパスノートも。関学オリジナルパッケージの「神戸モロゾフ　リーフクッキー」も人気だ。

林秀雄常務理事（５２）によると、学生はもちろん、観光客らもよく立ち寄るという。「これからもいろんなコラボ商品を開発して、関学のＰＲをしていきたい」

■プレゼント

関西学院大学博物館で過去に開いた企画展「日中のかけはし―愛新覚羅溥傑家の軌跡―」と「神々の宿る布―古代アンデスからのメッセージ―」の図録をセットで１０人にプレゼント。ラストエ

ンペラーの弟溥傑と、日本の侯爵家の長女だった妻の浩（ひろ）に関する写真や資料、アンデス文明の染織品の写真を堪能できます。

件名「見つける・関西学院大学博物館」で、名前、住所、電話番号と記事の感想をメール（yukan-toukou@asahi.com）でお送り下さい。１５日（日）必着。当選者のみに連絡します。